

第40回日本嚥下医学会総会

ならびに 学術講演会

会 長：塩谷 彰浩

防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座

会 期：2017年(平成29年)2月24日(金)・25日(土)

会 場：学術総合センター (一橋講堂) <東京都千代田区>

ご挨拶

このたび、平成29年2月24日(金)、25日(土)の両日、学術総合センター(一橋講堂)において第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会を開催させて頂くことになりました。伝統ある本学会を担当させていただき、大変名誉なことと存じますとともに、身の引き締まる思いをいたしております。また、このような機会を与えていただきました藤島前理事長、兵頭現理事長をはじめ、会員の皆様方に心から感謝申し上げます。

今回の学会では「嚥下医学のこれから」をテーマとしております。1981年に発足した嚥下研究会が2004年に日本嚥下医学会になり、本会で第40回目を迎えます。この脈々と続いてきた嚥下医学会を、40回目をターニングポイントとして見つめなおし、これからの嚥下医学を探索しようという主旨であります。本学会においても嚥下医学のこれからの見据えながら発表・討論が旺盛に行われることを期待しております。

特別企画に関しては、第40回記念講演「わが国における嚥下研究の黎明期とその歩み」を進武幹先生(佐賀大学名誉教授)にお願いしております。梅崎俊郎先生(国際医療福祉大学)には追補講演および司会をお願いしており、現在に至るまでの嚥下医学会の歩みを振り返るとともに、今後嚥下医学会が歩むべき道を考える上での大きなヒントになると思っております。

兵頭理事長には、理事長ご就任後の最初の総会ということもあり、理事長講演「日本嚥下医学会の歩みと社会的役割」をお願いしております。本学会の歴史を踏まえて、今後の方向性や学会としての責任などをお話しいただく予定となっております。

シンポジウムは2つ企画いたしました。1日目には山脇正永先生(京都府立医科大学総合医療・医学教育学)のご司会で、今までの嚥下医学会でのシンポジウムでは取り上げることがなかった「認知症と嚥下障害」をテーマに行います。我が国では高齢化の加速に伴い、認知症高齢者はますます増加すると推定されますが、認知症と嚥下障害の関連性は未解明な点が多く、これからの研究の進展が待たれる分野でもあります。今回は認知症総論やEBM、対応の実際に至るまでを多面的に議論していただきます。

2日目には藤本保志先生(名古屋大学耳鼻咽喉科)のご司会で「機能温存」治療後の嚥下障害とその対策を行います。頭頸部癌の治療においては、喉頭機能温存が望まれることは言うまでもありませんが、喉頭機能の中でも嚥下機能の維持が最も重要かつ難しい課題と言えます。本シンポジウムでは機能温存手術や化学放射線治療後の嚥下障害についてどのようにマネジメントすればよいか、各治療別にエキスパートに討議していただきます。

教育セミナーは嚥下医学に関連深いトピックスを3つ企画いたしました。辻哲也先生(慶應義塾大学リハビリテーション医学)には「がんリハビリテーションー嚥下障害を中心に」を、小林靖先生(防衛医科大学校解剖学)には「咽頭・喉頭の特異性：境界を担う構造として」を、藤島一郎先生(浜松市リハビリテーション病院)には「嚥下障害における治療的検査と集約的リハビリテーション」をそれぞれのご専門の立場からご講演いただきます。どのセミナーも大変興味深く聞き逃す手はありません。是非ご参加下さい。なお、本セミナーは新専門医制度に準拠した耳鼻咽喉科領域講習として行われる予定です。

さらに、要望演題パネルディスカッションとして、「嚥下機能改善手術」と「誤嚥防止手術」を企画いたしました。要望演題として「私の手術」を募集したところ、多くの優れた演題が集まり、実現することができました。嚥下関連手術において工夫されている点や手技に関して、各演者が手術ビデオをご提示いただき、最後に総合的に討論していただく予定です。

学会終了後のポストコンgresセミナーは、「病態に基づく摂食嚥下訓練」をテーマとしました。嚥下訓練では、臨床症状を適切に捉えることと同時に正確な病態把握が重要となります。今回は、嚥下障害を呈する代表的な疾患(脳血管障害、神経筋疾患、頭頸部癌、食道癌、誤嚥性肺炎)を取り上げ、各分野のエキスパートの先生に、病態に基づく治療・訓練・対応等について最新の臨床知見を含め披露いただきます。実際に訓練にあたる言語聴覚士のみならず、訓練に関わる医師においても有益な内容になると確信しております。

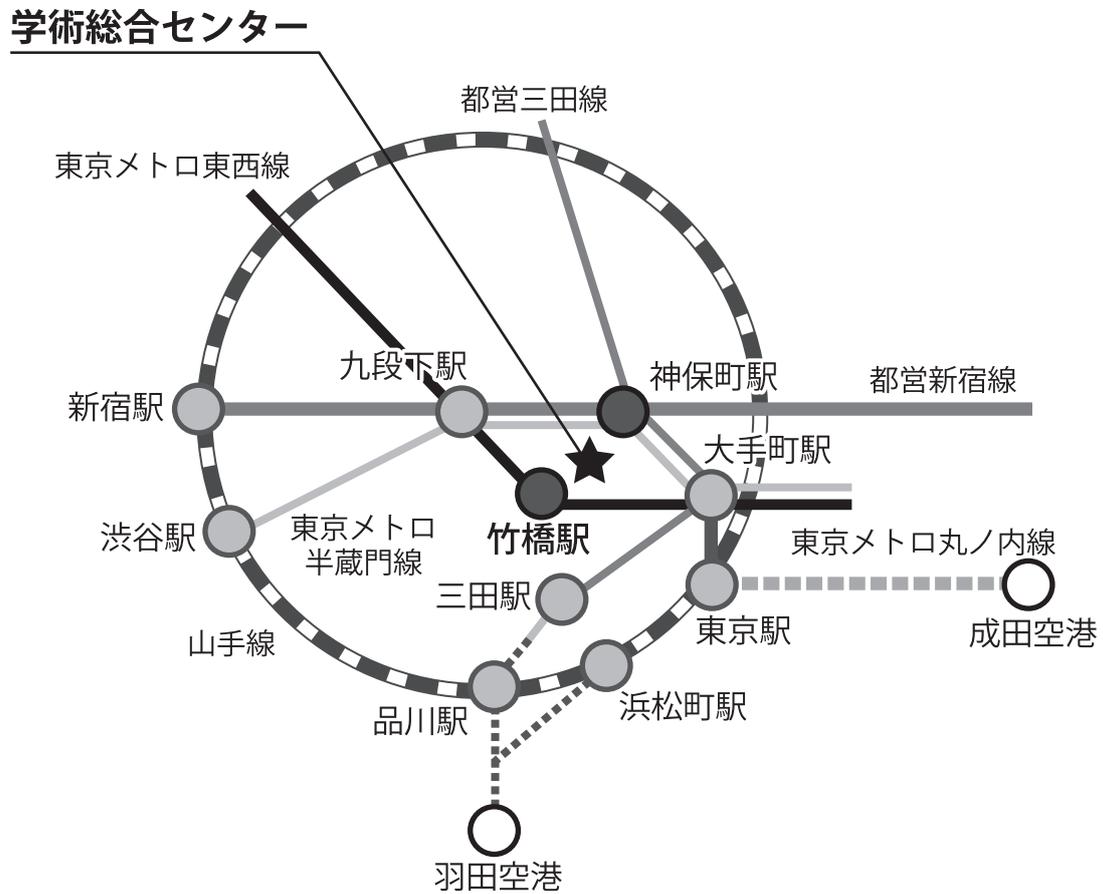
現在教室員一丸となって、先生方のご期待に少しでも添えるように鋭意準備を進めておりますが、会の成功は会員の先生方のご協力にかかっておりますことは言うまでもございません。何卒盛大なるご支援をお願い申し上げますとともに、沢山のご参加をお待ち申し上げます。

第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会

会長 塩谷 彰浩

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座 教授

交通案内図



◆ 東京駅からの主なアクセス

東京 — (丸ノ内線・池袋方面) — 大手町 — (半蔵門線・中央林間方面) — 神保町 (10分)

東京 — (丸ノ内地下中央口より地下道で直結) — 大手町 — (東西線・中野方面) — 竹橋 (10分)

◆ 羽田空港からの主なアクセス

羽田空港 — (京浜急行・品川方面) — 泉岳寺 — (都営浅草線・押上方面) —

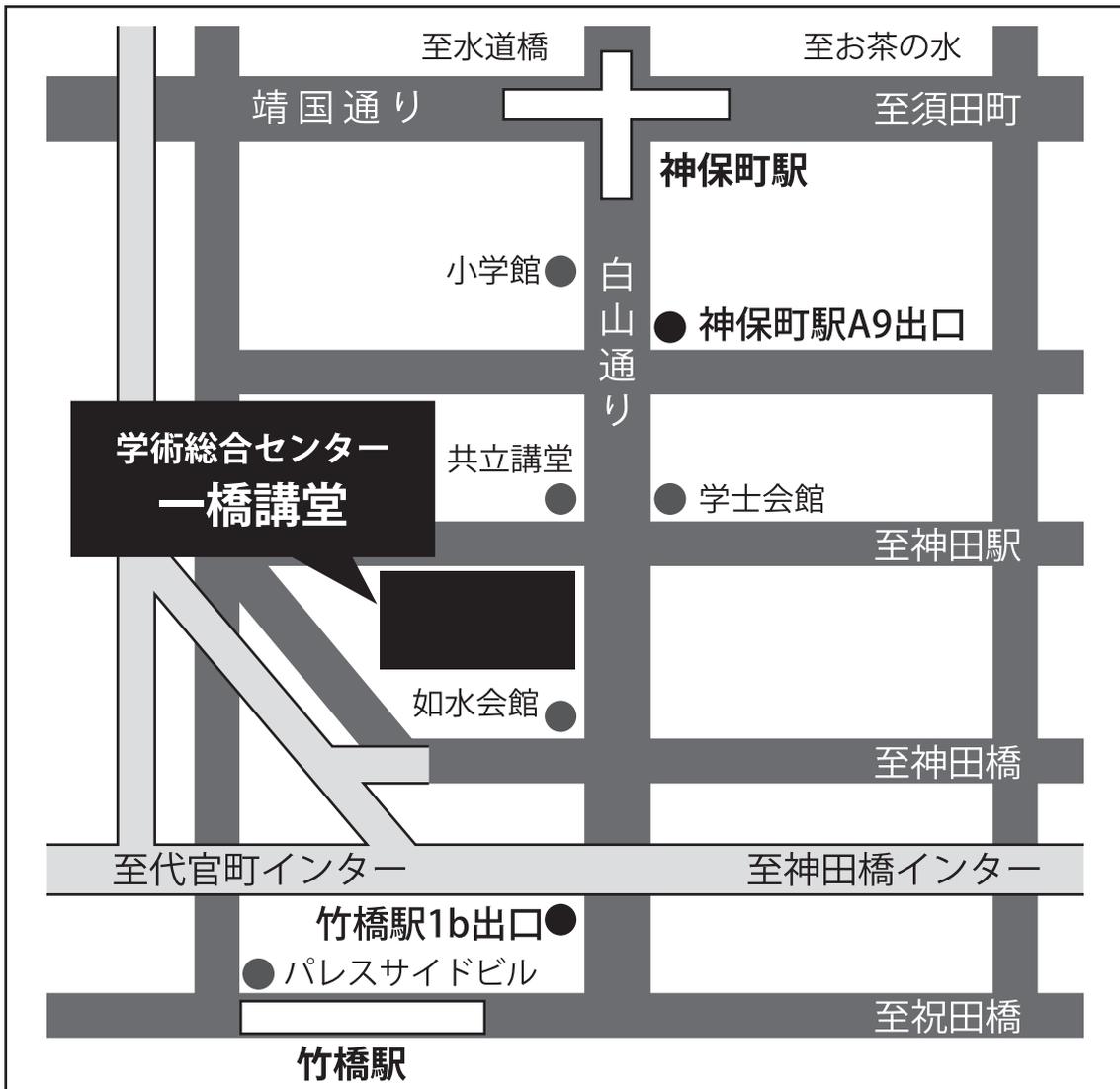
三田 — (都営三田線・西高島平方面) — 神保町 (50分)

会場アクセス図

学術総合センター（一橋講堂）

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

TEL：03-4212-3900

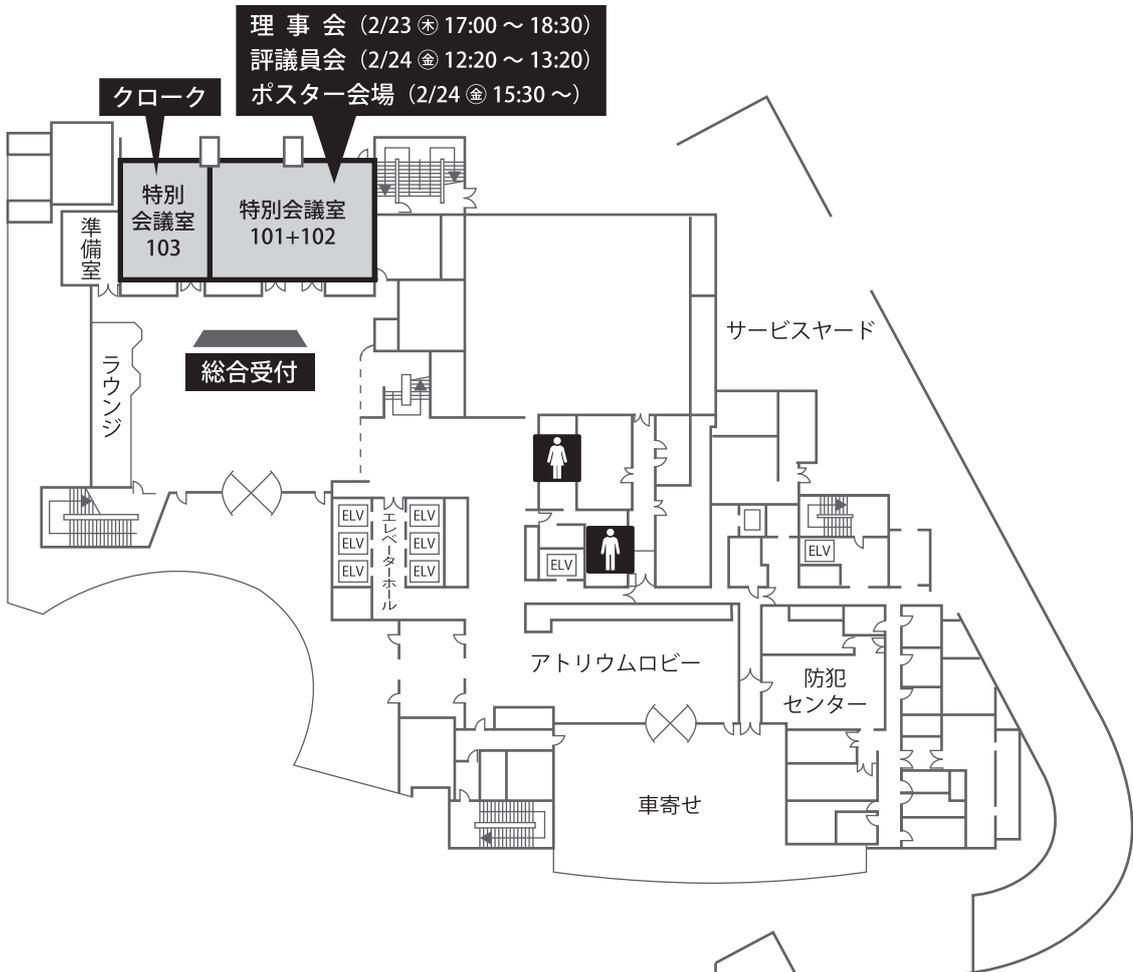


「神保町駅」A9 出口から徒歩4分

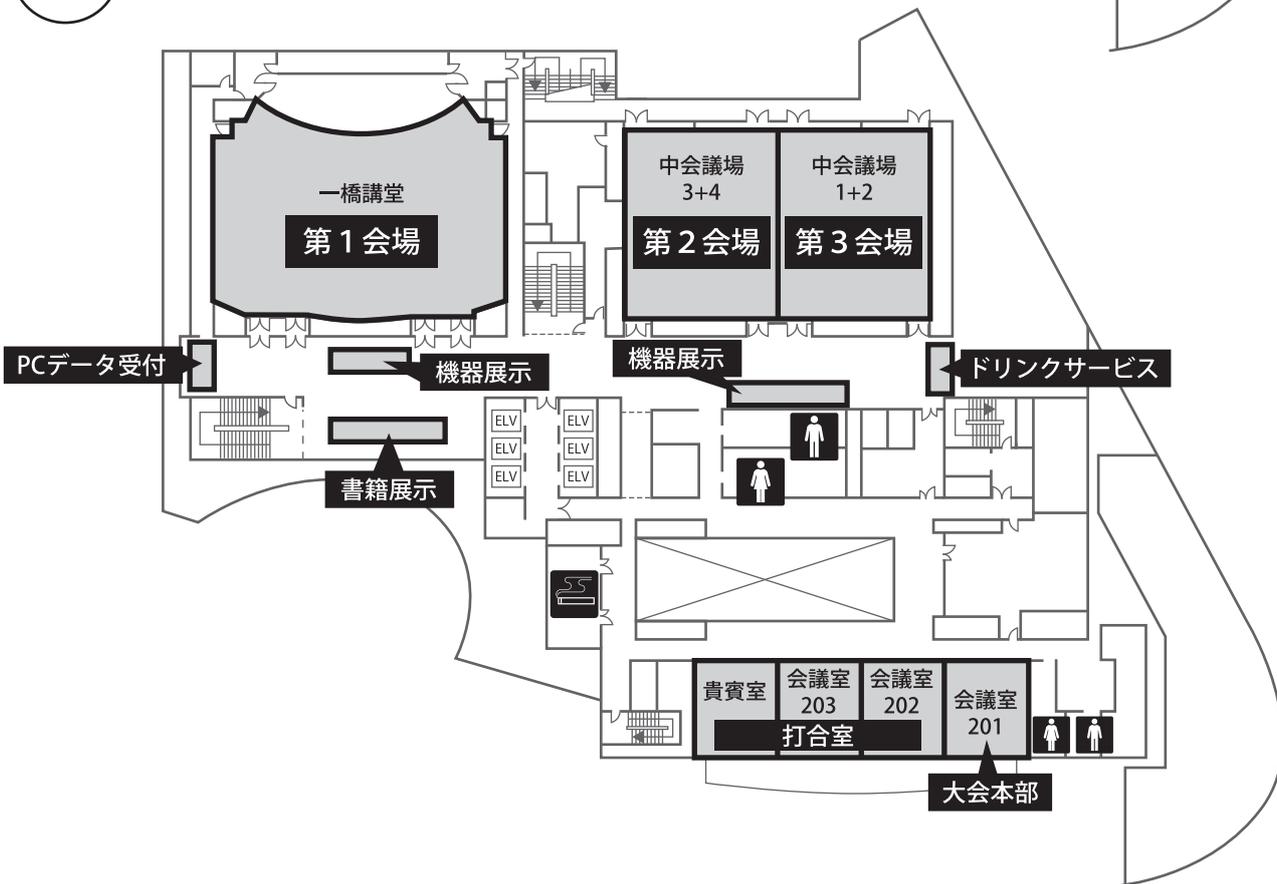
「竹橋駅」1b 出口から徒歩4分

会場案内図

1F



2F



お知らせとご案内

1. 参加登録受付

(1) 受付時間

月日	参加登録受付時間	
	第40回日本嚙下医学会総会 ならびに学術講演会	ポストコンgresセミナー
2月24日(金)	9:00～18:00	9:00～18:00
2月25日(土)	9:00～16:00	9:00～17:00(※)

(2) 受付場所

学術総合センター 1F「エントラスロビー」

※2月25日(土) 16:00～17:00のポストコンgresセミナーの受付は第1会場前で実施いたします。

(3) 参加費

10,000円です。引き換えに学会参加証(ネームカード)をお渡ししますので、氏名・所属をご記入の上、会期中は必ずご着用ください。学会参加証は再発行いたしかねますのでご了承ください。

(4) プログラム・抄録集(1,000円)は総合案内で販売いたします。

2. 理事会・評議員会・総会

(1) 理事会 2月23日(木) 17:00～18:30 (学術総合センター 1F「特別会議室101」)

(2) 評議員会 2月24日(金) 12:20～13:20 (学術総合センター 1F「特別会議室101+102」)

(3) 総会 2月24日(金) 13:25～13:55 (学術総合センター 2F「一橋講堂」(第1会場))

3. 座長・司会の方へ

(1) 座長・司会の方は、ご担当セッションの開始予定時刻の15分前までに会場内の「次座長席」にご着席ください。座長・司会受付はございません。(ポスター座長の方は、次座長席はございませんので該当ポスターパネル前にセッション開始時刻にお越しください)

(2) 発表時間は下記の通りです。プログラムの円滑な進行をお願いいたします。

- 一般演題(口演) 1題10分(発表7分、質疑3分)
- 一般演題(ポスター) 1題5分(発表3分、質疑2分)
- 要望演題パネルディスカッション 1題10分(発表7分、質疑3分)
※最後に総合討論(約20分)を行います。
- 上記以外のセッション 座長・司会に一任いたします。

4. ご発表の皆様へ

(1) 口演発表について

- ① 発表はPCプレゼンテーションのみです。
- ② 該当セッションの開始15分前までに次演者席にご着席ください。
- ③ セッション内の進行は座長・司会の先生の指示に従ってください。
- ④ 発表形式・データ受付

●発表形式

- 1) 各会場に用意するPCのOSはWindows7 (PowerPoint2007、2010、2013 解像度XGA1024×768)です。他のWindowsのバージョンやMacintoshで作成された場合は、必ず上記環境で動作確認済みのデータをお持ち込みください。
- 2) 発表データは、Windows版PowerPoint2007、2010、2013で作成し、媒体(USBフラッシュメモリ等)に保存してご持参ください。
- 3) フォントは文字化けを防ぐため、Windows7標準のものをご使用ください。
- 4) プレゼンテーションデータに他のデータ(静止画・グラフ等)をリンクさせている場合は必ず「図」として挿入してください。元のデータから「リンク」させることは、トラブルの原因となりますので、避けてください。
- 5) 事前に必ず作成に使用されたパソコン以外でのチェックを行ってください。
- 6) 動画を使用する場合はバックアップとしてご自身のパソコンもご持参ください。
- 7) Macintoshを使用する場合は、必ずご自身のパソコンと変換ケーブルをお持ち込みください。

OS	作成ソフト	データ預かり	パソコン持込
Windows7	PowerPoint2007 (Windows版)	○(動画可)	○
	PowerPoint2010 (Windows版)	○(動画可)	○
	PowerPoint2013 (Windows版)	○(動画可)	○
	上記以外のソフト	×	○
Macintosh		×	○

※すべてのご発表について、音声の使用は可能です。

●発表データ受付

- 1) PCデータ受付場所 2F「一橋講堂(第1会場)」前ホワイエ
- 2) PCデータ受付時間 2月24日(金) 9:00～18:00
2月25日(土) 9:00～17:00
- 3) 発表の30分前までに、データ受付へデータをご持参ください。
- 4) 受付終了後、PCオペレーター立ち会いのもとで動作確認(試写)を行ってください。
- 5) オペレーターが受け取ったデータは、発表会場に送られてスタンバイしています。発表の15分前までに会場にお越しいただき、次演者席でお待ちください。なお、発表データは会期終了後、主催者事務局にて責任をもって消去いたします。

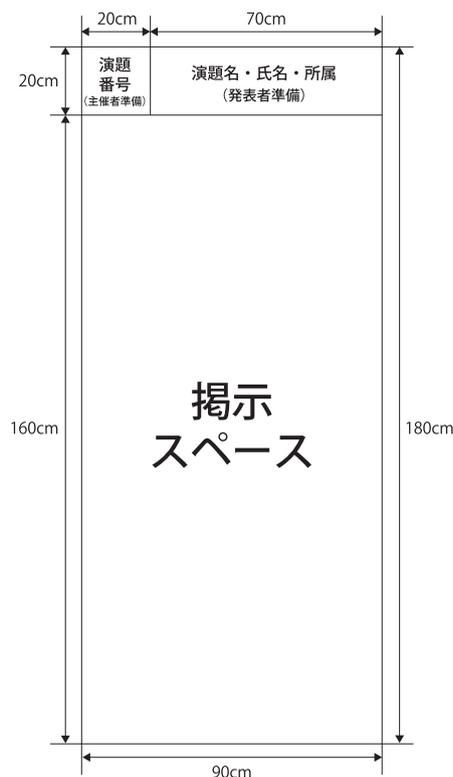
- 6) ノートパソコンをお持ち込みの場合は、PCデータ受付にて映像出力を確認し、発表者ご自身で会場内のPC操作席に発表の15分前までにお持ちください。ノートパソコンは発表終了後、PC操作席にて返却いたしますので、忘れずにお持ち帰りください。

<ノートパソコンお持ち込みの注意点>

- ノートパソコンお持ち込みの場合でも、バックアップ用データとして媒体(USBフラッシュメモリ等)をご持参ください。またパソコンのACアダプターは必ずご用意ください。
- 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状はMini D-sub 15pinです。この形状にあったパソコンをご用意ください。またこの形状に変換するコネクタを必要とする場合は必ずご自身でお持ちになってください。
- スクリーンセーバー、省電力設定、ならびにパスワードはあらかじめ解除してください。
- スムーズな進行のために発表者ツールのご使用はご遠慮ください。

(2) ポスター発表について

- ① ポスター発表の演者の受付はございません。発表者は指定された時間にポスター会場内に設置してあるポスターパネルに直接ポスターを掲示してください。掲示用のピンを各パネル前にご用意しています。
- ② 1題5分(発表3分、質疑2分)です。
- ③ ポスターパネルは右図のように用意します。演題名、所属は20×70cmの枠内、発表内容は160×90cmの枠内でご準備ください。演題番号、掲示用のピン、演者用リボンは事務局にて用意します。
- ④ 発表者は指定された発表開始時刻には、演者用リボンをつけて、ポスターパネルの前で待機してください。
- ⑤ 撤去時間を過ぎても撤去されないポスターは事務局で処分いたしますので、あらかじめご了承ください。



貼付時間	2月24日(金) 15:30～16:00
供覧時間	2月24日(金) 16:00～17:00
	2月25日(土) 9:20～14:40
発表時間	2月24日(金) 17:00～18:00
撤去時間	2月25日(土) 14:40～15:30

5. ポストコンgresセミナー

「病態に基づく摂食嚥下訓練」

2月25日(土) 16:20～18:20 第1会場 (2F「一橋講堂」)

参加費：学会参加者：1,000円

学会非参加者：3,000円

※総合受付でお申込ください。

※2月25日(土) 16:00～17:00は第1会場前に受付を設けます。

6. ランチョンセミナー

ランチョンセミナー整理券は1F総合受付付近で2月24日(金)・25日(土)の両日とも9:00より配布いたします。

ランチョンセミナー開始後5分で整理券は無効となりますのでお気をつけください。

① ランチョンセミナー1

「抗ヒスタミン薬に関する最近のトピックス」

2月24日(金) 12:30～13:20 第2会場 (2F「中会議場3+4」)

司会：久 育男(京都学園大学副学長)

演者：岡本 美孝(千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授)

共催：大鵬薬品工業株式会社

② ランチョンセミナー2

「誤嚥性肺炎リスクの早期マーカーと早期介入の可能性」

2月24日(金) 12:30～13:20 第3会場 (2F「中会議場1+2」)

司会：香取 幸夫(東北大学大学院 医学研究科神経・感覚器病態学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野)

演者：越久 仁敬(兵庫医科大学生理学講座生体機能部門)

共催：株式会社村田製作所・カレイド株式会社・株式会社フードケア

③ ランチョンセミナー3

『インフルエンザの最新知識2017』～誤嚥性肺炎などの細菌二次感染を含めて～

2月25日(土) 12:00～12:50 第2会場 (2F「中会議場3+4」)

司会：大森 孝一(京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

演者：渡辺 彰(東北大学 加齢医学研究所 抗感染症薬開発寄附研究部門)

共催：大正富山医薬品株式会社

④ ランチョンセミナー4

「病態に応じた食事指導のポイント」

2月25日(土) 12:00～12:50 第3会場 (2F「中会議場1+2」)

司会：梅崎 俊郎(福岡山王病院 音声・嚥下センター部長 国際医療福祉大学教授)

演者：藤谷 順子(国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科医長)

共催：イーエヌ大塚製薬株式会社

7. 懇親会

2月24日(金) 18:10～ 第2会場+第3会場 (2F「中会議場1～4」)

参加費無料

8. 機器・書籍展示

2F ホワイエで行います。

9. クローク

1F「特別会議室103」

開設時間：2月24日(金) 9:00～19:30

2月25日(土) 9:00～18:30

10. 単位申請

■ 日本耳鼻咽喉科専門医の単位

本学会は、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医制度の認定学術集会です。

学術集会に参加して、専門医証の受付をすることで、学術業績・診療以外の活動実績として2単位、耳鼻咽喉科領域講習(教育セミナー1、2、3)の受講で1時間1単位(上限2単位)を取得できます。

耳鼻咽喉科領域講習の単位希望者は第1会場で受講をしてください。

中継会場となる第2会場では単位取得はできません。

<専門医証の受付について(学術業績・診療以外の活動実績)>

はじめに学術講演会の参加登録を行っていただき、ネームカードをご着用の上、「学術集会参加報告票」を受付にご提出ください。IDカードによる受付は行いませんのでご注意ください。なお、受付は2月25日(土)16:00までとさせていただきます。

※学術集会参加報告票をお忘れの方は、学術集会参加報告票とネームカードのコピーを、学会終了後1週間以内に主催事務局(防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座)までご郵送ください。

<耳鼻咽喉科領域講習について>

ネームカードについている「耳鼻咽喉科領域講習受講証明書引換券」に氏名・所属・専門医番号をご記入の上、耳鼻咽喉科領域講習会場退出時に、係員に渡してください。引換券と引き換えに受講証明書を配布いたします。開始5分以降の入場はできません。

11. 新規入会

日本嚥下医学会事務局ブースを設けます。新入会の受付、年会費のお支払いを承ります。

12. 学会事務局

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

TEL 04-2995-1686 FAX 04-2996-5212

13. 運営担当

株式会社学会サービス

〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7-3-101

TEL 03-3496-6950 FAX 03-3496-2150

E-mail: enge40@gakkai.co.jp

日程表

①：耳鼻咽喉科領域講習 耳鼻咽喉科領域講習の単位希望者は第1会場を受講をしてください。中継会場となる第2会場では単位取得はできません。

第1日目 2月24日(金)

	第1会場 2F [一橋講堂]	第2会場 2F [中会議場3+4]	第3会場 2F [中会議場1+2]	ポスター会場 1F [特別会議室101+102]
9:00	9:25~9:30 開会式			
10:00	9:30~10:30 教育セミナー1 『がんリハビリテーション —嚥下障害を中心に』 演者：辻哲也 司会：出江紳一	9:30~10:30 第1会場 中継 ※第2会場では領域講習の 単位取得はできません。	9:30~10:10 一般演題 第3群「外科的治療-1」 O03-1~O03-4 座長：鈴木 幹男 10:10~10:50 一般演題 第4群「外科的治療-2」 O04-1~O04-4 座長：齋藤 康一郎	
11:00	10:50~12:00 要望演題 パネルディスカッション1 『私の手術—嚥下機能改善手術』 PD1-1~PD1-5 座長：湯本 英二	10:50~11:30 一般演題 第1群「検査・評価-1」 O01-1~O01-4 座長：武田 憲昭 11:30~12:10 一般演題 第2群「チーム医療」 O02-1~O02-4 座長：平林 秀樹	10:55~11:35 一般演題 第5群「基礎-1」 O05-1~O05-4 座長：折館 伸彦 11:35~12:15 一般演題 第6群「基礎-2」 O06-1~O06-4 座長：三枝 英人	
12:00				
13:00		12:30~13:20 ランチョンセミナー1 『抗ヒスタミン薬に関する 最近のトピックス』 演者：岡本 美孝 司会：久 育男 共催：大鵬薬品工業株式会社	12:30~13:20 ランチョンセミナー2 『誤嚥性肺炎リスクの 早期マーカーと早期介入の可能性』 演者：越久 仁敬 司会：香取 幸夫 共催：株式会社村田製作所・ カレイド株式会社・ 株式会社フードケア	12:20~13:20 評議員会
14:00	13:25~13:55 総会			
15:00	14:05~15:05 理事長講演 『日本嚥下医学会の歩みと 社会的役割』 演者：兵頭 政光 司会：塩谷 彰浩		14:05~15:05 一般演題 第7群「症例-1」 O07-1~O07-6 座長：巨島 文子・辻 裕之	
16:00	15:10~16:25 第40回記念講演 司会：梅崎 俊郎	記念講演 『わが国における嚥下研究の 黎明期とその歩み』 演者：進 武幹 追補講演 『最近の嚥下研究と 嚥下障害治療の動向』 演者：梅崎 俊郎	17:00~17:30 ポスター演題1「基礎」 P1-1~P1-6 座長：安達 一雄 17:00~17:25 ポスター演題2「外科的治療」 P2-1~P2-5 座長：土師 知行 17:30~18:00 ポスター演題3「臨床統計」 P3-1~P3-6 座長：谷合 信一 17:25~17:55 ポスター演題4「症例」 P4-1~P4-6 座長：木村 百合香	15:30~16:00 ポスター 貼付 16:00~17:00 ポスター 供覧
17:00	16:30~18:00 シンポジウム1 『認知症と嚥下障害』 演者：山田 正仁・山脇 正永・ 清水 充子 司会：山脇 正永			17:00~18:00 ポスター演題
18:00				
19:00		18:10~ 会員懇親会		

①：耳鼻咽喉科領域講習 耳鼻咽喉科領域講習の単位希望者は第1会場で受講をしてください。中継会場となる第2会場では単位取得はできません。

第2日目 2月25日①

	第1会場 2F [一橋講堂]	第2会場 2F [中会議場3+4]	第3会場 2F [中会議場1+2]	ポスター会場 1F [特別会議室101+102]
9:00				
10:00	9:20~10:20 ① 教育セミナー2 『咽頭・喉頭の特異性： 境界を担う構造として』 演者：小林 靖 司会：丹生 健一	9:20~10:20 第1会場 中継 ※第2会場では領域講習の 単位取得はできません。	9:20~10:20 一般演題 第11群「頭頸部癌」 O11-1~O11-6 座長：竹内 万彦・山下 拓	
11:00	10:40~11:50 要望演題 パネルディスカッション2 『私の手術—誤嚥防止手術』 PD2-1~PD2-5 座長：梅野 博仁	10:40~11:40 一般演題 第8群「検査・評価-2」 O08-1~O08-6 座長：堀口 利之・鮫島 靖浩	10:25~11:05 一般演題 第12群「神経筋疾患」 O12-1~O12-4 座長：谷口 洋 11:05~11:45 一般演題 第13群「臨床統計-1」 O13-1~O13-4 座長：荒木 幸仁	9:20~14:40
12:00	演者：渡辺 彰 司会：大森 孝一 共催：大正富山医薬品株式会社	12:00~12:50 ランチョンセミナー3 『『インフルエンザの最新知識2017』 ～誤嚥性肺炎などの 細菌二次感染を含めて～』	12:00~12:50 ランチョンセミナー4 『病態に応じた食事指導のポイント』 演者：藤谷 順子 司会：梅崎 俊郎 共催：イーエヌ大塚製薬株式会社	ポスター 供覧
13:00	13:00~14:00 ① 教育セミナー3 『嚥下障害における治療的検査と 集約的リハビリテーション』 演者：藤島 一郎 司会：香取 幸夫	13:00~14:00 第1会場 中継 ※第2会場では領域講習の 単位取得はできません。	13:00~14:00 一般演題 第14群「症例-2」 O14-1~O14-6 座長：倉智 雅子・深浦 順一	
14:00	14:20~15:50 シンポジウム2 『“機能温存”治療後の 嚥下障害とその対策』 演者：加藤 健吾・丸尾 貴志・ 富藤 雅之・中川 雅裕 司会：藤本 保志	14:20~15:20 一般演題 第9群「訓練リハ」 O09-1~O09-6 座長：大前 由紀雄・苺安 誠 15:20~15:50 一般演題 第10群「治療」	14:10~15:10 一般演題 第15群「検査・評価-3」 O15-1~O15-6 座長：竹内 裕美・志賀 清人 15:10~15:50 一般演題 第16群「臨床統計-2」 O16-1~O16-4 座長：室野 重之	14:40~15:30 ポスター 撤去
16:00	15:50~15:55 閉会式	O10-1~O10-3 座長：平野 滋		
17:00	16:20~18:20 ポストコンgresセミナー 『病態に基づく摂食嚥下訓練』 演者：巨島 文子・谷合 信一・ 山本 敏之・丸目 正忠・ 飯野 由恵 司会：柴本 勇			
18:00				
19:00				

第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会プログラム

第40回記念講演

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 15:10～16:25

司会：梅崎 俊郎 (国際医療福祉大学教授、福岡山王病院音声・嚥下センター部長)

記念講演

「わが国における嚥下研究の黎明期とその歩み」

進 武幹 佐賀大学名誉教授

追補講演

「最近の嚥下研究と嚥下障害治療の動向」

梅崎 俊郎 国際医療福祉大学教授、福岡山王病院音声・嚥下センター部長

理事長講演

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 14:05～15:05

司会：塩谷 彰浩 (防衛医科大学学校耳鼻咽喉科学講座)

「日本嚥下医学会の歩みと社会的役割」

兵頭 政光 日本嚥下医学会理事長 (高知大学医学部耳鼻咽喉科)

教育セミナー1 [耳鼻咽喉科領域講習]

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 9:30～10:30

司会：出江 紳一 (東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野)

「がんリハビリテーションー嚥下障害を中心に」

辻 哲也 慶應義塾大学リハビリテーション医学教室、
慶應義塾大学医学部腫瘍センターリハビリテーション部門

※耳鼻咽喉科領域講習の単位は第1会場でのみ取得できます。

教育セミナー2 [耳鼻咽喉科領域講習]

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月25日(土) 9:20～10:20

司会：丹生 健一 (神戸大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野)

「咽頭・喉頭の特殊性：境界を担う構造として」

小林 靖 防衛医科大学学校解剖学講座

※耳鼻咽喉科領域講習の単位は第1会場でのみ取得できます。

教育セミナー3 [耳鼻咽喉科領域講習]

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月25日(土) 13:00～14:00

司会：香取 幸夫 (東北大学大学院 医学研究科神経・感覚器病態学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野)

「嚥下障害における治療的検査と集約的リハビリテーション」

藤島 一郎 浜松市リハビリテーション病院

※耳鼻咽喉科領域講習の単位は第1会場でのみ取得できます。

シンポジウム1 『認知症と嚥下障害』

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 16:30～18:00

司会：山脇 正永 (京都府立医科大学総合医療・医学教育学)

「認知症総論」

山田 正仁 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学 (神経内科学)

「認知症と嚥下障害 (内科医の立場から)」

山脇 正永 京都府立医科大学大学院 総合医療医学教育学、在宅チーム医療推進学

「認知症の嚥下障害への対応の実際 ～言語聴覚士の立場から～」

清水 充子 埼玉県総合リハビリテーションセンター

シンポジウム2 『“機能温存”治療後の嚥下障害とその対策』

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月25日(土) 14:20～15:50

司会：藤本 保志 (名古屋大学耳鼻咽喉科学教室)

「頭頸部癌化学放射線療法で嚥下障害の出現・遷延化を防ぐために」

加藤 健吾、石井 亮、香取 幸夫

東北大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

「下咽頭部分切除後の嚥下障害」

丸尾 貴志 国立がん研究センター東病院 頭頸部外科

「経口的咽喉頭部分切除術 (Transoral Videolaryngoscopic Surgery) 術後の嚥下障害とその対策」

富藤 雅之、荒木 幸仁、谷合 信一、塩谷 彰浩

防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座

「中咽頭側壁癌再建症例」

中川 雅裕¹⁾、赤澤 聡¹⁾、三枝 紀子¹⁾、長島 隼人¹⁾、市川 佑一¹⁾、森 正徳¹⁾、
鬼塚 哲郎²⁾、飯田 善幸²⁾、上條 朋之²⁾、木谷 卓史²⁾、長岡 真人²⁾、井上 啓太^{1,3)}

¹⁾ 静岡県立静岡がんセンター 再建・形成外科、²⁾ 静岡県立静岡がんセンター 頭頸部外科、

³⁾ アヴェニューセルクリニック

要望演題パネルディスカッション1 『私の手術—嚥下機能改善手術』

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 10:50～12:00

座長：湯本 英二 (熊本大学名誉教授)

PD1-1 顕微鏡下に行う頸部外切開による輪状咽頭筋切断術

二藤 隆春 東京大学 医学部 耳鼻咽喉科

PD1-2 重度嚥下障害に対する嚥下機能改善手術での工夫と手技

長井 美樹、原田祥太郎、坂田 正行

堺市立総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

PD1-3 一側咽頭麻痺に対する咽頭弁形成術

千年 俊一、深堀光緒子、末吉慎太郎、濱川 幸世、佐藤 公則、進 保朗、梅野 博仁

久留米大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

PD1-4 誤嚥を伴う片側性声帯麻痺に対する内視鏡下声帯注入術

佐藤 公則、千年 俊一、梅野 博仁

久留米大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

PD1-5 高度嚥下障害に対する気管孔閉鎖を前提としない喉頭挙上術

二藤 隆春 東京大学 医学部 耳鼻咽喉科

要望演題パネルディスカッション2 『私の手術—誤嚥防止手術』

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月25日(土) 10:40～11:50

座長：梅野 博仁 (久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)

PD2-1 Biller 法症例への対応

津田 豪太^{1,8)}、木村百合香²⁾、武藤 博之³⁾、鈴木 猛司⁴⁾、清宮 悠人^{5,8)}、前田 暁子^{5,8)}、五十嵐麻美^{5,8)}、馬目美由紀^{6,8)}、青木 尚美^{7,8)}、山浦 一恵^{7,8)}

¹⁾ 聖隷佐倉市民病院 耳鼻咽喉科、²⁾ 昭和大学 医学部 耳鼻咽喉科、³⁾ 山王病院 耳鼻咽喉科、

⁴⁾ 千葉大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、⁵⁾ 聖隷佐倉市民病院 リハビリテーション部、

⁶⁾ 聖隷佐倉市民病院 看護部、⁷⁾ 聖隷佐倉市民病院 栄養部、

⁸⁾ 聖隷佐倉市民病院 摂食嚥下センター

PD2-2 私の局麻下声門閉鎖術+両側輪状咽頭筋起始部離断術

金沢 英哲、岩永 健、藤島 一郎

浜松市リハビリテーション病院 えんげと声のセンター

PD2-3 誤嚥防止を目的とする狭域の喉頭摘出術：喉頭中央部切除術

香取 幸夫、平野 愛、加藤 健吾

東北大学 大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

PD2-4 当科における誤嚥防止術

河本 勝之、藤原 和典、平 憲吉郎、木原 智史、竹内 裕美

鳥取大学 医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

PD2-5 U字皮弁とV-Locを用いた声門下喉頭閉鎖術

内田 真哉 京都第二赤十字病院 耳鼻咽喉科・気管食道外科

ランチョンセミナー 1

第2会場 [2F 中会議場3 + 4]

2月24日(金) 12:30～13:20

司会：久 育男 (京都学園大学副学長)

「抗ヒスタミン薬に関する最近のトピックス」

岡本 美孝 千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授

共催：大鵬薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 2

第3会場 [2F 中会議場1 + 2]

2月24日(金) 12:30～13:20

司会：香取 幸夫 (東北大学大学院 医学研究科神経・感覚器病態学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野)

「誤嚥性肺炎リスクの早期マーカーと早期介入の可能性」

越久 仁敬 兵庫医科大学生理学講座生体機能部門

共催：株式会社村田製作所・カレイド株式会社・株式会社フードケア

ランチョンセミナー 3

第2会場 [2F 中会議場3 + 4]

2月25日(土) 12:00～12:50

司会：大森 孝一 (京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

「『インフルエンザの最新知識2017』

～誤嚥性肺炎などの細菌二次感染を含めて～」

渡辺 彰 東北大学 加齢医学研究所 抗感染症薬開発寄附研究部門

共催：大正富山医薬品株式会社

ランチョンセミナー 4

第3会場 [2F 中会議場1 + 2]

2月25日(土) 12:00～12:50

司会：梅崎 俊郎 (福岡山王病院 音声・嚥下センター一部長 国際医療福祉大学教授)

「病態に応じた食事指導のポイント」

藤谷 順子 国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科医長

共催：イーエヌ大塚製薬株式会社

ポストコンgresセミナー 『病態に基づく摂食嚥下訓練』

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月25日(土) 16:20 ~ 18:20

司会：柴本 勇 (聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部)

「脳梗塞に伴う摂食嚥下障害」

巨島 文子 京都第一赤十字病院 リハビリテーション科

「頭頸部癌に伴う嚥下障害」

谷合 信一 防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座

「神経筋疾患」

山本 敏之 国立精神・神経医療研究センター病院神経内科

「誤嚥性肺炎の嚥下障害とその対応」

丸目 正忠 国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科

「食道癌に伴う摂食嚥下障害」

飯野 由恵 国立がん研究センター東病院骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

理事会

1F [特別会議室 101]

2月23日(木) 17:00 ~ 18:30

評議員会

1F [特別会議室 101 + 102]

2月24日(金) 12:20 ~ 13:20

総会

第1会場 [2F 一橋講堂]

2月24日(金) 13:25 ~ 13:55

2月24日(金) 10:50～11:30

第2会場 [2F 中会議場3+4]

第1群「検査・評価-1」

座長：武田 憲昭 (徳島大学 大学院HBS研究部・医学部 耳鼻咽喉科学)

001-1 嚥下造影検査による嚥下動態評価とストレッチセンサによる評価の比較

花家 薫 神戸大学大学院 保健学研究科

001-2 咽喉頭異常感症患者におけるバリウム食道通過についての検討

清野 由輩 北里大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科

001-3 回復期リハビリテーション病院への嚥下内視鏡検査の往診

山野 貴史 福岡歯科大学 総合医学講座 耳鼻咽喉科分野

001-4 検査食を用いない嚥下内視鏡評価の提案—高齢者施設における誤嚥検診を通じて—

今泉 光雅 福島県立医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座

2月24日(金) 11:30～12:10

第2会場 [2F 中会議場3+4]

第2群「チーム医療」

座長：平林 秀樹 (獨協医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科)

002-1 東京都中野区における在宅療養(摂食えん下機能)支援事業の取り組み

熊埜御堂浩 熊埜御堂耳鼻咽喉科

002-2 初診時からチーム医療を行った他科依頼嚥下障害患者の臨床経過

稲木 香苗 佐野厚生総合病院

002-3 当科における嚥下外来の開設について

古川 傑 昭和大学 耳鼻咽喉科学講座

002-4 耳鼻咽喉科病棟における多職種での嚥下カンファレンスの現状

田村 友美 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

2月24日(金) 9:30～10:10

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第3群「外科的治療-1」

座長：鈴木 幹男 (琉球大学 医学部 耳鼻咽喉科)

003-1 嚥下機能改善手術における長期術後合併症の検討

鮫島 靖浩 熊本大学 医学部 附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

003-2 喉頭枠組み手術に併施する患側輪状咽頭筋起始部離断術の効果と限界

岩永 健 浜松市リハビリテーション病院 えんげと声のセンター

003-3 脊索腫に対して経下顎舌縦割進入法を用いて腫瘍減量術を施行した症例の術後嚥下機能

桑田 文彦 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

003-4 内視鏡下輪状咽頭筋切断術を行った頭頸部癌放射線治療後嚥下障害の2例

田中加緒里 愛媛大学 医学部 耳鼻咽喉科

2月24日(金) 10:10～10:50

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第4群「外科的治療-2」

座長：齋藤康一郎 (杏林大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸科)

004-1 一側性声帯麻痺に対する外科的介入後の嚥下機能

甲能 武幸 慶應義塾大学耳鼻咽喉科

004-2 一側性声帯麻痺に伴う嚥下障害に対して、甲状軟骨形成術1型の有効性の検討

菊池 良和 九州大学 医学研究院 耳鼻咽喉科学

004-3 高度嚥下障害に対し一期的に喉頭気管分離術とT-E shunt術を行った1例

安達 一雄 福岡山王病院 耳鼻咽喉科、福岡山王病院 音声嚥下センター

004-4 当科における誤嚥防止手術— 喉頭枠組みを除去した声門下閉鎖と喉頭蓋切除

山田光一郎 日本赤十字社 和歌山医療センター 耳鼻咽喉科

2月24日(金) 10:55～11:35

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第5群「基礎-1」

座長：折館 伸彦 (横浜市立大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

005-1 茎突舌筋の比較解剖学的研究

三枝 英人 東京女子医科大学八千代医療センター耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科

005-2 食道における腸管神経の分布：高齢者のご遺体を用いた免疫組織化学的研究

香取 幸夫 東北大学 大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

005-3 干渉波電気刺激による嚥下惹起性の改善に関する検討

杉山庸一郎 京都府立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

**005-4 4次元嚥下シミュレータの障害モデル作成による嚥下中の喉頭蓋反転と
食道入口部開大のバイオメカニクス解明**

道脇 幸博 武蔵野赤十字病院 特殊歯科・口腔外科

2月24日(金) 11:35～12:15

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第6群「基礎-2」

座長：三枝 英人 (東京女子医科大学 八千代医療センター 耳鼻咽喉科)

006-1 口腔内への温度刺激がもたらす咽頭皮質延髄路の変調

真柄 仁 新潟大学 大学院 医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

006-2 健常者におけるストロー連続飲水時の舌口蓋接触の観察

—エレクトロパトグラフィを用いた観察—

平田 文 国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科

006-3 耳内嚥下音の臨床応用についての検討

山口 優実 九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

006-4 Wavelet変換を用いた嚥下音の自動抽出システムの開発

三輪 洋靖 産業技術総合研究所 人間情報研究部門

2月24日(金) 14:05～15:05

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第7群「症例-1」

座長：巨島 文子(京都第一赤十字病院 リハビリテーション科)
辻 裕之(金沢医科大学医学部 頭頸部外科学)

- 007-1** 嚥下能改善術後も嚥下不能であった延髄梗塞後嚥下障害の原因が延髄以外の病態によるものであった1例
門園 修 東京女子医科大学 八千代医療センター 耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科
- 007-2** 急性発症の嚥下障害で背部痛を伴う場合は破傷風を考慮すべきである
長谷川 節 厚木市立病院 神経内科
- 007-3** リハビリテーションで常食摂取が可能となった特発性輪状咽頭嚥下困難症の1例
田中 良 天理よろづ相談所病院 リハビリセンター
- 007-4** ルビエールリンパ節郭清後に嚥下障害を呈した甲状腺乳頭癌の1例
能田 拓也 金沢医科大学 耳鼻咽喉科
- 007-5** VZV脳脊髄炎により広範な延髄病変を認めたが、劇的に嚥下障害が改善した1例
向井 泰司 東京慈恵会医科大学 附属柏病院
- 007-6** 嚥下障害をきたしたANCA関連血管炎の2例
木村 拓也 愛媛大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2月25日(土) 10:40～11:40

第2会場 [2F 中会議場3+4]

第8群「検査・評価-2」

座長：堀口 利之(北里大学 医療衛生学部)
鮫島 靖浩(熊本大学 耳鼻咽喉科)

- 008-1** 健常成人における多チャンネル管腔内インピーダンス測定による食塊通過速度の解析
松原 慶吾 熊本大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻
- 008-2** 高解像度マノメトリーの機種の違いによる測定値の差異について～嚥下圧曲線と嚥下圧伝播曲線を中心に～
宮本 卓海 熊本大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 008-3** 高精度マノメトリー (HRM) が算出する圧は何か？
—4次元嚥下シミュレータ Swallow Vision[®]による検討—
道脇 幸博 武蔵野赤十字病院 特殊歯科・口腔外科
- 008-4** 高解像度マノメトリーによる正常高齢者の嚥下咽頭運動量の評価
原 稔 長崎大学病院 耳鼻咽喉科
- 008-5** 3D高解像度マノメトリーを用いた上部食道括約機構の解析
進 保朗 社会保険 田川病院 耳鼻咽喉科
- 008-6** 胸部食道癌手術の嚥下圧への影響
立山 香織 大分大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2月25日(土) 14:20～15:20

第2会場 [2F 中会議場3+4]

第9群「訓練リハ」

座長：大前由紀雄 (大生水野クリニック)

苅安 誠 (京都学園大学健康医療学部 言語聴覚科)

009-1 喉頭気管分離術・T-Eシャント併用例の音声嚥下訓練について

佐藤 伸宏 福岡山王病院 耳鼻咽喉科 音声・嚥下センター

009-2 息こらえ嚥下法と鼻つまみ嚥下併用療法の有効であった延髄外側梗塞による嚥下障害

森 静香 京都第一赤十字病院 リハビリテーション科

009-3 当科における嚥下リハビリテーションの取り組み

西原美沙子 近畿大学 医学部 耳鼻咽喉科教室

009-4 退院時非経口摂取患者の訪問リハビリ介入後における現状報告

赤木健太郎 えびすリハビリ訪問看護ステーション西宮

009-5 頭頸部疾患嚥下障害患者への「とろみの3段階を用いた指導」による肺炎発症に関する検討

横山 明子 東京大学医学部附属病院 看護部

009-6 皮膚筋炎による嚥下障害例の検討

石永 一 三重大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

2月25日(土) 15:20～15:50

第2会場 [2F 中会議場3+4]

第10群「治療」

座長：平野 滋 (京都府立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

010-1 嚥下障害予後関与因子の検討2—進化と発達からみた姿勢と嚥下障害—

伊藤 裕之 神奈川リハビリテーション病院耳鼻咽喉科

010-2 カプサイシン軟膏による外耳道刺激を利用した肺炎予防プロジェクト第1報。

高齢者肺炎は減らせるのか？

陣内 自治 阿南共栄病院 耳鼻咽喉科、徳島大学 耳鼻咽喉科

010-3 カプサイシン軟膏による外耳道刺激が嚥下障害患者の咳反射を改善する：

クエン酸吸入による咳テストでの評価

近藤 英司 徳島大学 耳鼻咽喉科

2月25日(土) 9:20～10:20

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第11群「頭頸部癌」

座長：竹内 万彦 (三重大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科)
山下 拓 (北里大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

011-1 頭頸部癌根治的化学放射線療法における舌根-咽頭後壁間距離の変化と絶食期間、照射後嚥下障害との関係

加藤 健吾 東北大学 医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科

011-2 高齢者口腔癌の治療と摂食嚥下障害・嚥下性肺炎の発症リスクの検討

那須 隆 山形大学 医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

011-3 当院における喉頭温存した下咽頭癌のCRT、BRT症例の嚥下機能について

北野 睦三 近畿大学 医学部 医学科

011-4 頭頸部癌化学放射線療法中の経口摂取中止および嚥下機能の胃瘻依存への影響

石井 亮 東北大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

011-5 頭頸部癌治療中治療後の栄養摂取方法に関する検討

小野 二美 岩手医科大学付属病院 言語聴覚室

011-6 舌癌患者の舌機能評価と食事形態との関連性

加藤 直志 筑波大学附属病院 リハビリテーション部

2月25日(土) 10:25～11:05

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第12群「神経筋疾患」

座長：谷口 洋 (東京慈恵会医科大学付属柏病院 神経内科)

012-1 当院における筋萎縮性側索硬化症に対する誤嚥防止術施行例へのSTの関わり

春田 涼子 浜の町病院 リハビリテーション科

012-2 構音障害、嚥下障害を呈した封入体筋炎に対して機能改善術が有効であった1例

貞安 令 東京女子医科大学 東医療センター 耳鼻咽喉科

012-3 嚥下関連症状を契機に診断にいたった神経・筋疾患の5例

弘瀬かほり 高知大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

012-4 当院において嚥下機能検査を行った多発性筋炎/皮膚筋炎についての検討

中森祐里和 防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座

2月25日(土) 11:05～11:45

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第13群「臨床統計-1」

座長：荒木 幸仁 (防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座)

013-1 広範囲舌切除・再建術患者の経口摂取自立までの期間に関する要因の検討

小山 恭平 名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション部

013-2 嚥下障害予後関与因子の検討 1—頸髄損傷と脳血管障害性延髄病変との比較より—

伊藤 裕之 神奈川リハビリテーション病院 耳鼻咽喉科

013-3 認知機能低下と肺炎既往は、口腔内衛生不良に影響する

丸山 美香 特定医療法人 公仁会 明石仁十病院 リハビリテーション科

013-4 嚥下障害スクリーニングの結果と COPD 増悪の関連性の検討

吉松 由貴 飯塚病院 呼吸器内科

2月25日(土) 13:00～14:00

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第14群「症例-2」

座長：倉智 雅子 (新潟リハビリテーション大学大学院)

深浦 順一 (国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科)

014-1 頸椎すべり症が骨癒合し、経口摂取獲得に繋がった症例

岡本 圭史 浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 言語聴覚士

014-2 術後にみられた咽喉頭の器質的変化により食塊通過が次第に変化した一症例

菅野小百合 浜松市リハビリテーション病院 えんげと声のセンター 言語聴覚士

014-3 重度嚥下障害を生じた腫瘍随伴性 PM/DM 患者における摂食嚥下訓練の経験

瀬知亜有未 愛媛大学耳鼻咽喉科

014-4 嚥下機能改善術によりコード1jレベルの経口摂取が可能となった

パーキンソン病75歳男性例

中山 慧悟 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 身体リハビリテーション部

014-5 摂食嚥下機能の向上により ADL 目標達成に至った進行性核上性麻痺の一例

郡司 祐子 医療法人社団 医修会 大川原脳神経外科病院

014-6 完全側臥位法を経過姿勢とした一例

大脇 珠里 医療法人社団 医修会 大川原脳神経外科病院 リハビリテーション部

2月25日(土) 14:10～15:10

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第15群「検査・評価-3」

座長：竹内 裕美 (鳥取大学医学部感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学)
志賀 清人 (岩手医科大学医学部 頭頸部外科学科)

015-1 当科における嚥下機能検査の検討

松野 直樹 防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座

015-2 ゼリーの種類の違いと咀嚼が咽頭期嚥下に与える影響の検討

上羽 瑠美 東京大学 耳鼻咽喉科

015-3 耳内嚥下音による反復唾液嚥下検査の信頼性と、反復唾液嚥下の日差変動について

土師 知行 県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科

015-4 当院における嚥下機能評価の実態

小林 雅和 国立国際医療研究センター 耳鼻咽喉科

015-5 咳テストにおけるシリコンマウスピース使用の有用性

藤原 和典 鳥取大学医学部感覚運動医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

015-6 心臓血管外科術後の嚥下障害についての検討

宮本 真 関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2月25日(土) 15:10～15:50

第3会場 [2F 中会議場1+2]

第16群「臨床統計-2」

座長：室野 重之 (福島県立医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座)

016-1 当科嚥下外来における外科手術後患者の検討

八鍬 修一 山形大学 医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

016-2 嚥下造影検査を行った症例の検討

田浦 政彦 佐世保共済病院

016-3 当院における嚥下障害への取り組み

片岡 舞 福岡大学筑紫病院 リハビリテーション部

016-4 脳卒中例における肺炎発症例の特徴

小西 正訓 中村記念病院 耳鼻咽喉科

ポスター演題

2月24日(金) 17:00～17:30

ポスター会場 [1F 特別会議室 101 + 102]

ポスター演題 1「基礎」

座長：安達 一雄 (福岡山王病院 耳鼻咽喉科)

- P1-1 嚥下反復時の舌骨上筋群筋活動量の変化 - 表面筋電図を用いた観察 -**
佐藤 豊展 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科、
聖隷クリストファー大学大学院 リハビリテーション科学研究科
- P1-2 頸部姿勢の違いが舌挙上運動時の筋活動量に与える影響**
矢野川大輝 高知大学 医学部付属病院 リハビリテーション部
- P1-3 パーキンソン病の頭頸部角度および Hoehn & Yahr stage は誤嚥性肺炎に相関しない**
阿部 匠 医療法人札幌山の上病院 リハビリテーション部
- P1-4 Gap 課題を用いて推定された嚥下運動に対する高次調節機序**
米田 匡輝 熊本大学 大学院 教育学研究科
- P1-5 摂食行動はあくびのように伝染するか？
— タウナギ *monopterus albus* の採餌行動からの考察 —**
齋藤 和也 熊本大学 教育学部
- P1-6 喉頭運動に対するシート状ストレッチセンサを用いた喉頭挙上訓練の検討**
梅原 健 神戸大学大学院 保健学研究科、独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター

2月24日(金) 17:00～17:25

ポスター会場 [1F 特別会議室 101 + 102]

ポスター演題 2「外科的治療」

座長：土師 知行 (県立広島大学保健福祉学部 コミュニケーション障害学科)

- P2-1 当科にて行った声門閉鎖術の検討**
又吉 宣 琉球大学 医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- P2-2 局所麻酔下声門閉鎖術の有用性**
渡邊 格 杏林大学 医学部 耳鼻咽喉科学教室
- P2-3 パーキンソン症候群による上気道狭窄への対応**
木村百合香 昭和大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座、東京都健康長寿医療センター 研究所
- P2-4 反回神経麻痺を来した終末期癌患者の誤嚥に対する甲状軟骨形成術の効果**
福家 智仁 伊勢赤十字病院 頭頸部・耳鼻咽喉科
- P2-5 エンテロウイルス D 68 感染の脳幹脳炎による嚥下障害に対し、
嚥下機能改善術を行った 1 例**
富樫 孝文 新潟大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2月24日(金) 17:30～18:00

ポスター会場 [1F 特別会議室 101 + 102]

ポスター演題3「臨床統計」

座長：谷合 信一 (防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座)

P3-1 回復期病棟における脳血管疾患による嚥下障害患者の帰結と入院期間の検討

滝浪 綾乃 浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 言語聴覚士

P3-2 心臓血管外科術後患者における人工呼吸器管理離脱後の早期ST介入の検討

山下 智弘 麻生飯塚病院 リハビリテーション科

P3-3 嚥下造影検査からみた弓部置換術後の嚥下障害 —嚥下障害の発生頻度とその要因—

河村 迅 広島市立安佐市民病院 リハビリテーション科

P3-4 嚥下透視検査を用いた上顎洞癌術後の嚥下機能の検討

内 龍太郎 九州大学 医学部 医学科 耳鼻咽喉科頭頸部外科

P3-5 健常高齢者における自覚的なムセと身体機能の関係

中平 真矢 高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P3-6 根治的放射線療法後の頭頸部癌患者におけるEAT-10と嚥下機能評価の関連について

佐藤 剛史 東北大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科

2月24日(金) 17:25～17:55

ポスター会場 [1F 特別会議室 101 + 102]

ポスター演題4「症例」

座長：木村百合香 (昭和大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座)

P4-1 頸椎前方除圧固定術後に重度の嚥下障害を呈した症例

赤池 洋 山梨大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P4-2 バルーンカテーテル訓練により経口摂取可能となったWallenberg症候群の一例

本村 大輔 麻生飯塚病院 リハビリテーション部

P4-3 食道癌術後の逆流による反復性嚥下性肺炎の1例

川原 敬祐 杏林大学 医学部附属病院 摂食嚥下センター

P4-4 嚥下障害を発症したX連鎖性ミオチューブラーミオパチーの1例

佐藤えみり 東京女子医科大学 耳鼻咽喉科

P4-5 嚥下障害を主訴に受診した食道カンジダ症の2例

松井 祐興 日本海総合病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

P4-6 非侵襲的陽圧療法の併用により安全に内視鏡的胃瘻造設を施行できた、多系統萎縮症の82歳男性例。

宮川 晋治 東京慈恵会医科大学附属柏病院 神経内科